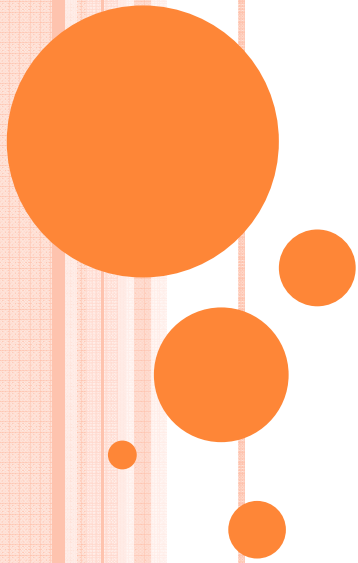
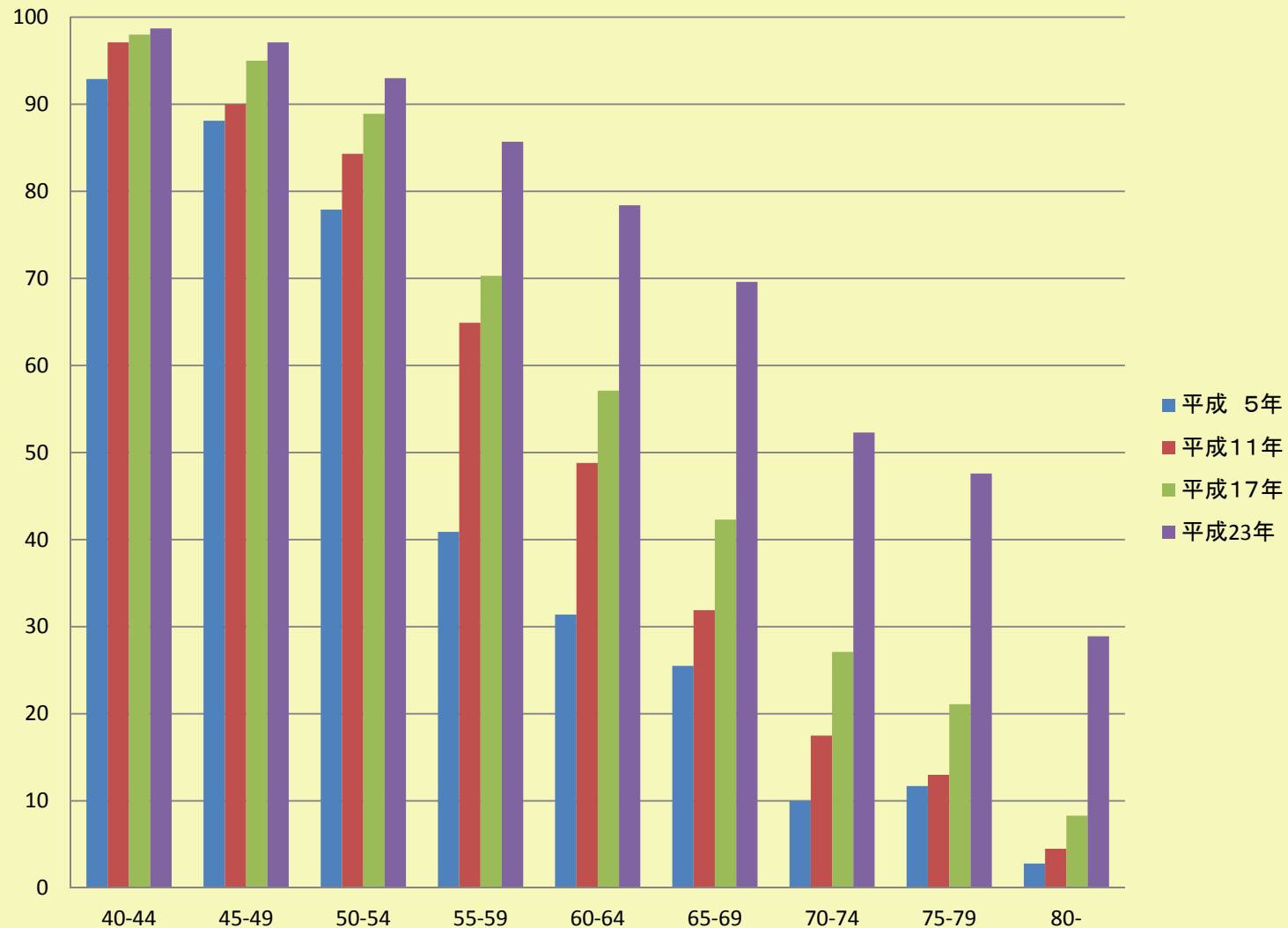


上野歯科医院 口腔内診査状況



平成23年度歯科疾患実態調査

28本中20本以上歯を有する者の割合 年次推移



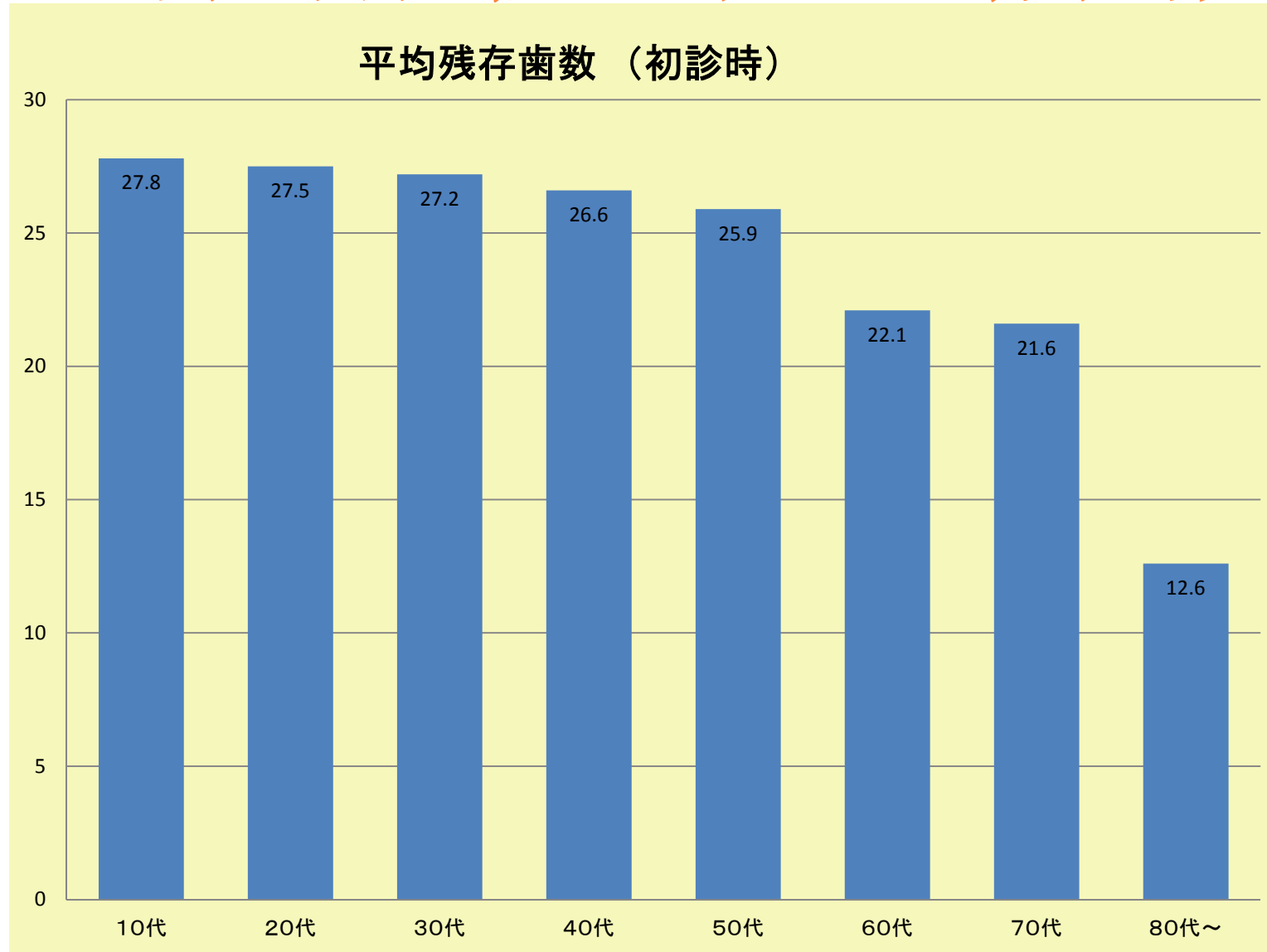
- 歯科疾患実態調査とは、歯科保健医療対策の推進に必要な基盤資料を得ることを目的に、**6年ごと**に実施している調査になります。

平成**23年**での**28本以上**歯を有する者の割合は、加齢にともない緩やかに下がっています。しかし平成**5年**・平成**11年**・平成**17年**は、**50代後半**から残存歯に差が出ています。**50代後半**の残存歯が多いか少ないかで、**80歳20本**歯があるかないか左右されると考えられます。

- 永久歯は**28本**、親知らずを含め**32本**あります。
- 平成**17年**と平成**23年**の**80代**を比較すると、**24.1%**も**20本**以上歯を有する者の割合が増えてきています。



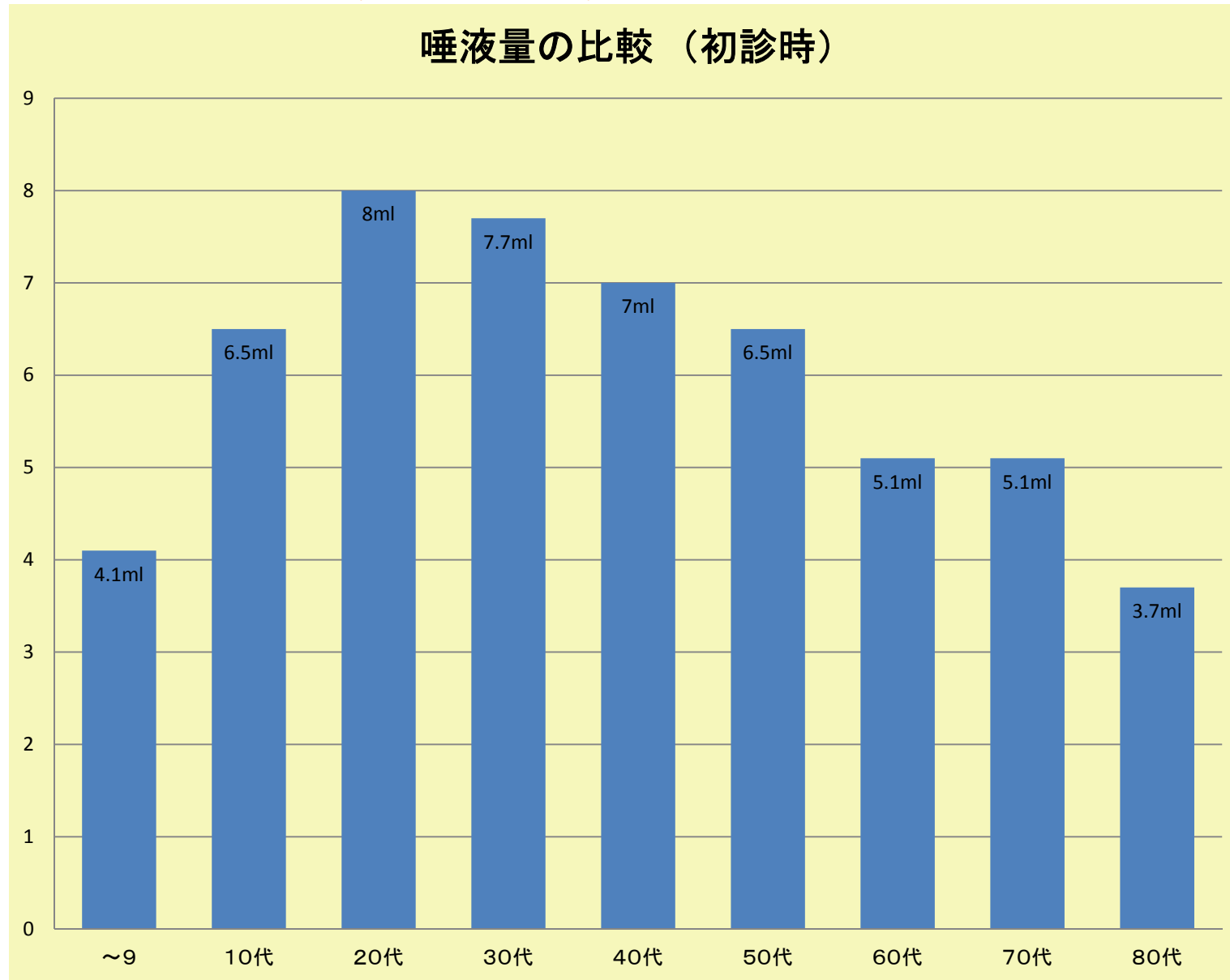
上野歯科医院の平均残存歯数



- 50代と60代の残存歯数を比べると3.8本の差があります。
- 歯を失う原因は、主に虫歯と歯周病です。



唾液の比較 (5分間での唾液量)

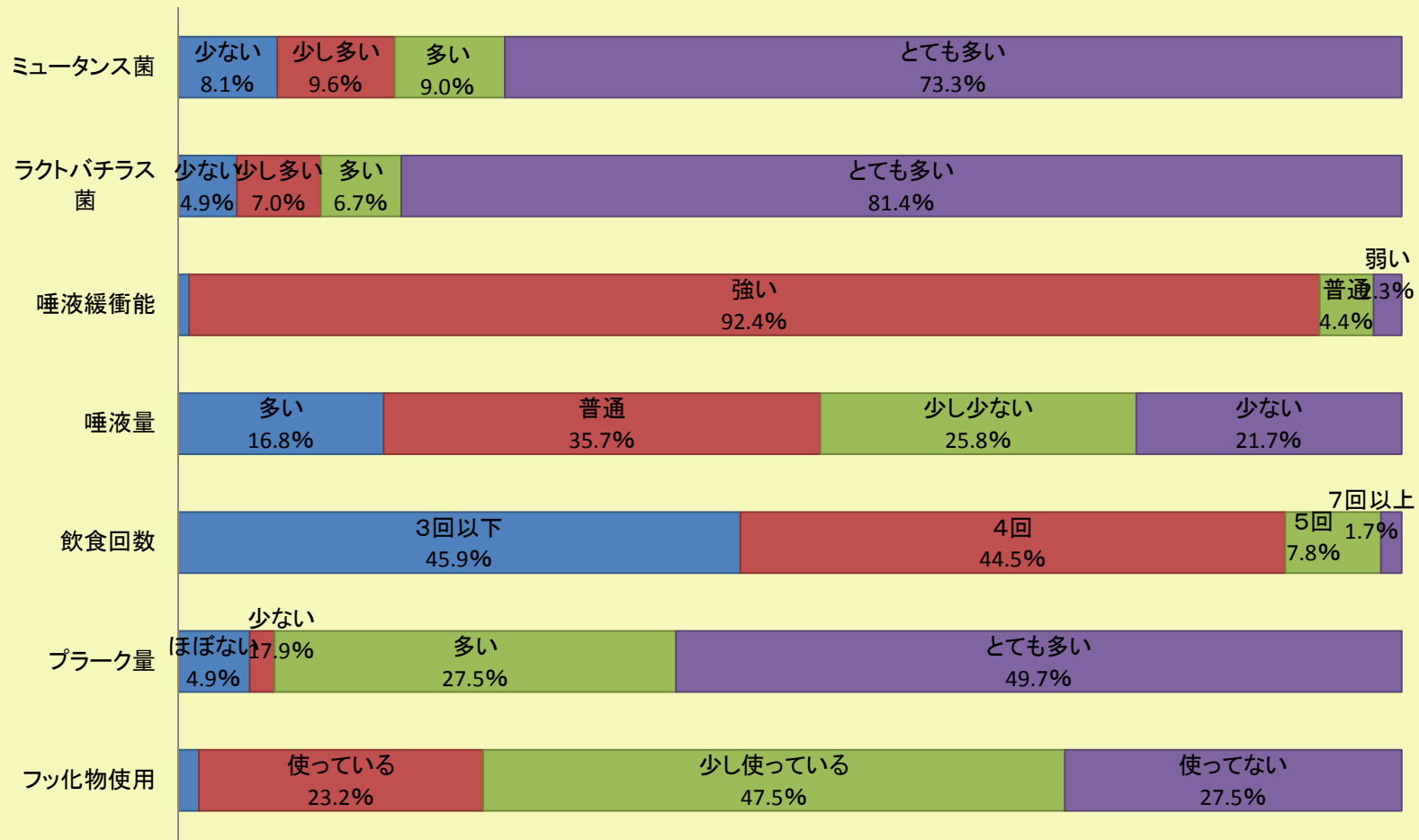


- 正常な5分間での唾液量は、5ml以上になります。
- 唾液量は20代から緩やかに下がっています。
- 唾液量は年齢が上がるほど減少してきます。
理由として下記のものと考えられます。
 - ・加齢によるもの
 - ・服用している薬によるもの
 - ・環境、体調によるもの
- ～9代、10代の唾液量は少ない結果がでました。
原因として、
 - ・容器に移すことが困難だった
 - ・容器に移す際飲み込んでいるなどの可能性が考えられるので、再度測定する必要があります。唾液量が少ないと虫歯や歯周病のリスクが高くなります。



虫歯リスク

カリエスリスクの分布（初診時）

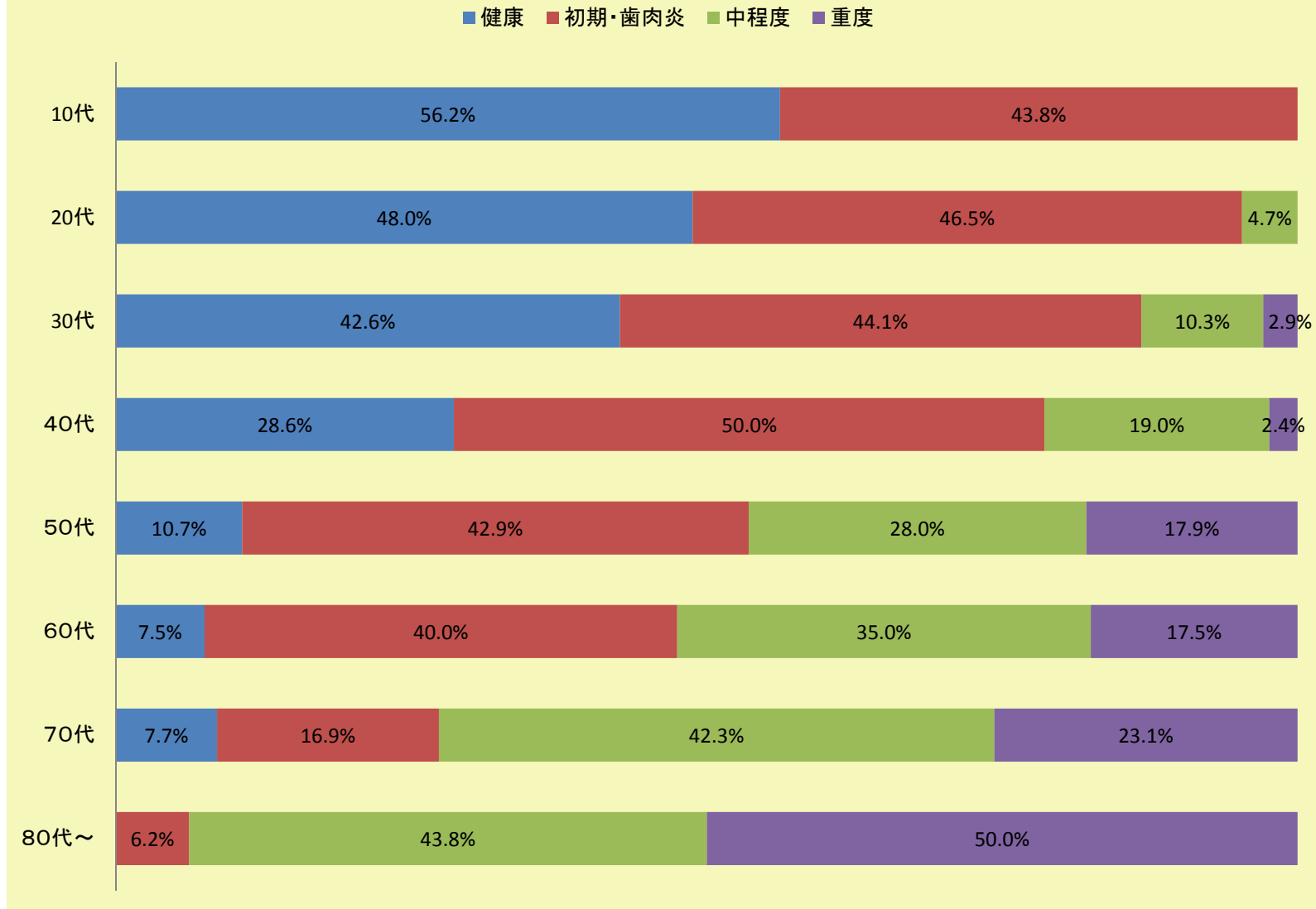


- ❑ 虫歯は歯、細菌、飲食の回数が多いと進行していきます。
- ❑ 虫歯には、虫歯を作るミュータンス菌と虫歯を進行させるラクトバチラス菌が大きく関係しています。当院初診時でのミュータンス菌・ラクトバチラス菌の「とても多い」の値が70%を超えています。菌を減少させ、予防していく必要があります。
- ❑ 1日の飲食回数が多いと、歯が溶ける時間を増やしてしまいます。飲食回数のメリハリをつけることが大切です。
- ❑ プラークとは細菌の塊になります。塊の中には虫歯菌や歯周病菌がいるので歯ブラシやフロス、歯間ブラシなどを併用して除去する必要があります。
- ❑ フッ素には再石灰化と虫歯予防に効果があります。日常でフッ素を摂るには歯磨き粉が簡便です。フッ素入りの歯磨き粉を選びましょう。



歯周病リスク

歯周病進行度の分布（初診時）



□ 10代、20代は初期・歯肉炎の割合が高く、50代以降から中等度、重度の割合が40代に比べ24.5%増えてきています。

□ 歯周病を増悪するものには下記があります。

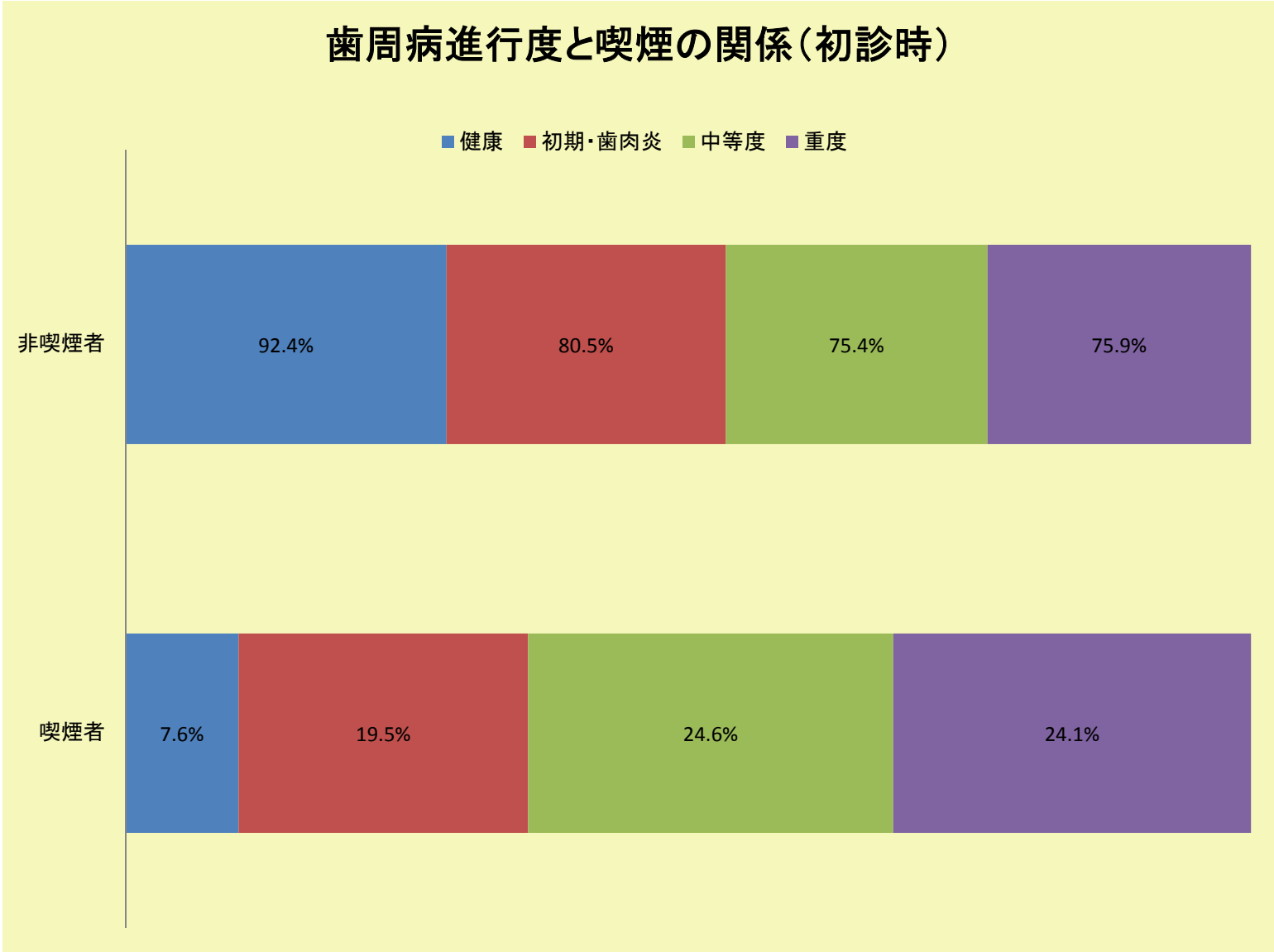
- ・歯ぎしり
- ・ストレス
- ・喫煙
- ・生活習慣
- ・噛み合わせ

進行させないためには、定期的なお口の掃除と予防が大切です。

□ 定期的な口腔衛生管理が特に重要です。



歯周病と喫煙



- 喫煙者は非喫煙者より歯周病リスクが高くなります。
- 喫煙されている方の歯周病リスクは7～8倍とされています。
- タバコにはニコチン、タール、一酸化炭素の三大害が含まれています。ニコチンは血液を収縮させる効果、タールは血液の循環を悪くする効果、一酸化炭素は血管を詰まりやすくする効果があり、歯肉の血管や骨に栄養を行き渡らせないことに関与します。



いつもご来院ありがとうございます。

2013年度も当院初診時の患者様データをもとに、お口の分析をしました。

当院の**2013**(平成**25**)年初診時の患者様と平成**23**年度の歯科疾患実態調査を比較したところ、**50**代後半からの歯周病リスクならびに唾液量の変化が共通して差があることがわかりました。

早期の検査を行い、自分のお口の中の状態を正しく理解することで、将来自分の歯でしっかり噛め、美味しく食べれるお口が維持出来ます。

2014年も皆さまのニーズに答えられるよう頑張って参ります。いつまでも健康で綺麗なお口でいれるよう、皆さまと一緒に予防して参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

